

【空知森林管理署 北空知支署】 木造建築・我が署紹介！



入れ、地域の皆さんにも親しんでいただける潤いと温かみのある庁舎を目指しました。

構造は、豪雪対策として、屋根は切妻屋根、床は高床、庇（ひさし）を深くして、落雪の恐れのある部分は、あえて木質

空知森林管理署北空知支署は、石狩川支流の一級河川・雨竜川上流の日本一のそばの里、幌加内町に所在しています。庁舎は、平成17年4月に落成し、今年で17年となりました。

建物の基本コンセプトは「豪雪と道北地方の木材！」
具体的には豪雪対策を基本とした設計と、庁舎周辺の自然に配慮した配色、更にバリアフリー仕様を取り



落雪から庁舎を守る列柱

材料の使用を避け、コンクリートの列柱を配置しました。

この列柱は当支署の執務室を保護する形で7本配置され、外見上の特色となっています。その他、外壁にはマツの羽目板を使用し、内部にはユニバーサルトイレを設置、スロープと併せてバリアフリーの建物となっています。



バリアフリーの玄関

主な木材は、トドマツ、エゾマツを始めとしてミズナラ、ヤチダモ、ウダイカンバなど道北地域で産出される木材をふんだんに使用しており、使用量は、構造材のトドマツ、エゾマツの大断面集成材等で約92㎡、外装材の、トドマツ、カラマツで約158㎡、内

装材は、カラマツ、ヤチダモ、ウダイカンバ、ミズナラ、アサダ、シナノキ、センノキの7種類を使用し約613㎡となっています。



支署長室

使用木材は、その特徴を生かし、支署長室は、ウダイカンバ、アサダ、センノキに囲まれた重厚な仕上げに、事務室及び会議室は、トドマツ、エゾマツの大断面構造用集成材の使用により天井が高く、開放感のある明るい造りとなっています。また、窓は全てキハダ、ヤチダモの木製サッシを使用し、内壁には、ウダイカンバ、シナノキ、ヤチダモの合板や羽目板を使用しミズナラの縁取りがアクセントになっています。

最後に、当支署のPRになります。管内は主に雨竜川沿いの深川市、幌加内町、沼田町、北竜町、雨竜町の1市4町にまたがる約67,000haの国有林を管理しています。

地域の主な産業は、水稲や蕎麦を主体とする農業で、農業用水を供給する朱鞠内湖等の多目的ダムが多く建設されています。その上流部に位置する国有林は水瓶として重要な役割を担っています。

今後とも季節の寒暖差約60度と3m越えの豪雪と共に、地域に密着した森林づくりと適切な管理・運営に努めて参ります。



大断面集成材を使用した会議室